

私たちの四年二か月

高橋典子・大上真由美

岩手県釜石市 甲子学童育成クラブ 指導員

長い長い、本当に長い地震のあと、ぼつぜんとして見上げた空は、不気味な鉛色でした。その日、土・日の休みを染しみにしている子どもたちの笑顔を迎えるため、受け入れ準備をしていた私たちが見たのは、広い校庭のまんなかで、絶えることなくつづく余震におびえたり、泣いたり、悲鳴をあげたりしている子どもたちの姿でした。

私たちの甲子学童育成クラブは、釜石の港から二〇キロメートルほど内陸に位置している、釜石市立甲子小学校の敷地内にあり、毎日五〇人から六〇人ほどの子どもたちが、下校後、保護者のお迎えまでを過ごす、保護者会運営の学童クラブです。

その日は夜遅くまで、小学校の先生方と小さなストープを囲んで保護

者のお迎えを待ち、帰宅確認を行いました。ところが、時間が経つにつれ、迎えに来た保護者のあおざめた顔と言葉から、海のほうは、「大変なこと」になっているらしい……と。

私たちが、事の重大さを知ったのは、その夜のことです。帰宅するところができずに泊まった学童クラブに、夜明けとともに、激しくドアを叩く音!! 「自衛隊です。校庭に車が入ります!」。その日から、学童クラブが再開される二〇一一年四月四日まで、学童クラブは、保護者の方々の協力を得て、具合の悪い方、妊婦さん・赤ちゃんのいるお母さんなどの避難所となりました。

あれから四年。ときどきおとずれの突然の余震に、泣いたり、こわがっ

ていた子どもたちも、いまはおびえつき、強くなってきました。おびえに思えます。被災した地から引越して転校してきた子どもも数人います。

転校当初は、津波の犠牲になった家族の話、流されてしまった自宅の様子などを話すこともありましたが、私たち指導員は、できるだけその子どもたちに寄りそい、聞き役となりました。幸い、転校してきた子どもたちと在校生との関係に距離はなく、「子どもたちは、互いに遊びや勉強のなかで、助けあっているな!」と強く感じられました。

国内のみならず、世界中からの応援もたくさんいただきました。物資だけではなく、子どもたちの笑顔と元気のためにと、たくさんの方々が行ってくださる企画は、いまもつづ

いています。皆さんに見守られて、子どもたちは、日々たくましく成長しています。

* * *

そして、二〇一四年秋、岩手県学童保育連絡協議会が「全国学童保育研究会会正岩手」を実行しました。「あのいたましい出来事に負けてはいられない!」という強い思いから、東北岩手の復興を、学童保育指導員から発信したい!! と、私たちも参加させていただきましたが、感動と奮起の二日間でした。全国の指導員の方々の熱意と応援に、私たちは毎日の保育で伝え、一日も早く被災地が希望に満ちる街になることを目標とし、微力ですが、がんばっているところです。

今春入学した小学一年生は、震災

当時二歳。震災の記憶もだんだんと薄れていきます。私たちは、子どもたちの未来のために、「震災の記憶の伝達者」でなければならぬと思います。避難訓練などを通し、折にふれて「あの日」のことを伝えていきたいと思っています。

* * *

いま、釜石は熱いです!!
二〇一九年、「ラグビーワールドカップ」開催地。先日は、釜石市橋野高炉跡が、ユネスコの「明治日本の産業革命遺産」に登録勧告され、盛りあがっています!! ぜひ釜石にいらして、身体で「釜石」を感じてください。海の幸・山の幸で歓迎いたします。

応援、ありがとうございます。

釜石の子どもたちは元気です!!